

2022年7月のてがたんは、新型コロナウイルスの感染対策として、少人数・申し込み制に変更して開催しました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回のとがたんは、8月13日(土)で、テーマは「外来種ってどんな生きもの？」です。ぜひご参加ください。8月2日の8時30分から電話での申し込みを開始いたします。市民スタッフのみなさま、次回のとがたん下見は、8月7日(日)の9:30からです。

7月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館 → 博物館駐車場東側 → 釣り堀裏 → じゃぶじゃぶ池前
- 観察日時と天気：2022年7月9日(土) 10:00～11:00 曇り時々晴れ
- 参加人数：8名(大人8名)
- 市民スタッフ：7名(湯瀬一栄、石原直子、伊東茂子、北村章子、木村稔、小泉伸夫、弘實さと子)
- 博物館友の会：1名(古澤紀元) ●鳥博職員：1人(岩本二郎)

観察した生き物の記録

* は7月3日の下見だけで見られたもの。

【鳥類】 カイツブリ科：カイツブリ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、コサギ/クイナ科：オオバン/タカ科：トビ/カラス科：ハシブトガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ツバメ科：ツバメ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ/アトリ科：カワラヒワ/家禽および外来種：ドバト(ハト科)

【爬虫類】 外来種：ミシシッピアカミミガメ(ヌマガメ科)*

【両生類】 アマガエル科：アマガエル/外来種：ウシガエル(アカガエル科)

【昆虫】 トンボ目：アジアイトトンボ*、アオモンイトトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、チョウトンボ、コシアキトンボ/バッタ目：ショウリョウバッタ、キンヒバリ、マダラスズ、コバネイナゴ/カマキリ目：オオカマキリ(幼虫)/カメムシ目：ニイニイゼミ/コウチュウ目：ヤノナミガタチビタマムシ、ハンノキハムシ、ルリハムシ、テントウムシダマシ/ハエ目：アオメアブ、ガガンボの仲間/ハチ目：オオホシオナガバチ*/チョウ目：コチャバネセセリ、ジャコウアゲハ、アオスジアゲハ、キアゲハ、ナミアゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハ、モンシロチョウ、ヤマトシジミ、ヒメウラジャノメ

【クモ】 タナグモ科：クサグモ(幼体)/アシナガグモ科：アシナガグモ/ジョロウグモ科：ジョロウグモ(幼体)/コガネグモ科：ナガコガネグモ(幼体)* /ハエトリグモ科：メスジロハエトリ

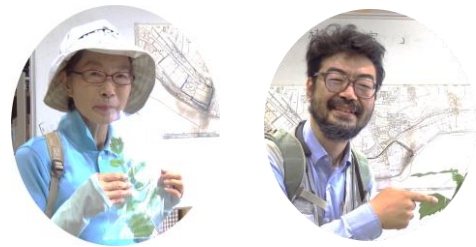
【植物】 草の花 ラン科：ネジバナ/アヤメ科：オオニワゼキショウ/カヤツリグサ科：ヤマイ/アカバナ科：オオバナミズキンバイ、ユウゲショウ/マメ科：ムラサキツメクサ、シロツメクサ/カタバミ科：カタバミ/ヒユ科：ナガエツルノゲイトウ/オオバコ科：ヘラオオバコ、カワチシャ/シソ科：トウバナ/サギゴケ科：トキワハゼ/キク科：ヒメジョオン、ホソバノチチコグサモドキ、ウラジロチチコグサ、ブタナ

木の花 アオイ科：ムクゲ/モクセイ科：トウネズミモチ

7月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「てがたん樹木検定・夏編」でした。歩きながら、木陰に入り、その木の特徴や見分け方を解説しました。最後はおさらいとして、切り取られた枝葉を見ながら、その木の種類を当てる「樹木検定」を行いました。



今月の案内人
湯瀬一栄さん・竹本周平さん



①ほうきを逆さにしたような樹形のケヤキ。



②1箇所から3枚の葉が出るキョウチクトウ。



③葉の表面がざらつくムクノキ。
中央にいるのはヤノナミガタチビタマムシ。



④3枚ずつのセットで1つの葉を形成するヤマハギ。



歩いたルートと観察した生き物



⑤葉が細かく分かれているメタセコイア。



⑥カツラの実。



⑦葉が内側に深く切れ込むヤマグワ。



⑧日陰によく生えているアオキ。

今月の鳥 ハクセキレイ (スズメ目セキレイ科)

冬羽では雌雄ともに背中が灰色で、全体的に白っぽく見えますが、雄の夏羽では背中が黒くなり、セグロセキレイと紛らわしくなります。しかし、頭部の目より下の部分が広く白色になる点が異なります。かつては本州以南ではほとんど繁殖せず、越冬のために飛来する冬鳥でした。それが南下して繁殖分布を広げ、関東地方には1970年代から進出したといわれています。その過程で、都市環境における人工物や人間由来の餌を利用するように、急速に適応したと考えられています。繁殖期以外にはビルや街路樹等に集団ねぐらを形成し、我孫子駅南口でも、日没前のロータリーに次々と集まる様子が見られます。



ハクセキレイの雄の夏羽